

日経 STOCK リーグ参加

団体名●壺内ゼミナール(3年)／代表者名●壺内慎二(経済学部経営学科・准教授)

はじめに

2022年度の壺内ゼミでは日本経済新聞社と野村ホールディングス(野村証券)主催の日経 STOCK リーグに参加した。日経 STOCK リーグとは、学校教育の場における投資学習の1つのツールとして企画されたコンテスト形式の金融・経済教育プログラムである。3人で1チームを組み、各チームは自分たちが設定したテーマに沿って日本証券取引所上場企業の中から20社を選び出し、投資ポートフォリオ(金融商品)を組む。およそ4,000社近くある上場企業から20社を選ぶプロセスと、20社のポートフォリオの収益シミュレーション結果の優劣を参加チームで競う。大学部門の参加チームは691チームであった。本報告は壺内ゼミで参加した4チームの STOCK リーグ活動の一部(テーマの選定)を紹介するものである。

活動内容

(A チーム：森井紘行、本佐つぼみ、城崎朱音)

私たちがこのテーマを選定した理由は、日本の稲作は日本の食料面、経済面、環境面において重要な役割を担うと考えたからだ。日本の稲作は、高齢化、後継者不足や耕作放棄地などの問題を抱えている。このまま問題を放置しておく、日本の食料自給率の低下や、耕作放棄地の増加、農家の経営難など負の連鎖は止まらないだろう。以上のような稲作業の問題を解決することができるものがスマート農業である。私たちはスマート農業に関連する小松製作所、日産化学など13社のポートフォリオを組んで商品化し、その魅力をレポートした。

活動内容

(B チーム：八木 真、本江望実、大塚歩乃、野村俊介)

北陸は東京や大阪などの都市部とは違い鉄道が発達していないため自動車が必要である。ところがガソリン価格の高騰で私たちの生活を苦しめる。さらに北陸は降雪も考慮しなければならない。私たちは

ニッキ、ナガオカなど、燃費が良い、ガソリンを必要としない、しかも降雪にも耐えうるエコカーに必要な会社をポートフォリオに組み込んだ。

活動内容

(C チーム：南茉央、津田茉鈴、宮下克彬)

地球温暖化が深刻化し自然エネルギーの必要性が高まっている。また、日本はエネルギー資源を他国に大きく依存しているため、エネルギー供給に不安を抱える。これらの問題を解決するためには再生可能エネルギーの開発が急がれる。私たちは製造時も使用時も CO2 を排出しない再生可能エネルギーであるグリーン水素関連の企業を中心にポートフォリオを組んだ。

活動内容

(D チーム：小池朱音、竹本采世、山岸健太郎)

高齢者が社会から孤立することなく、家族や社会とのつながりを持つことができる仕組みづくりを助ける企業を投資対象とした。高齢化は私たちが社会人になっても依然としてなくなるものではなく、今後も取り組むべき問題だからである。特に、三菱総合研究所、ゼネテック、ヴィッツといった高齢者を孤立させない手助けをしている IT 企業を中心に投資することとした。

